

認知症高齢者見守り連携

市が6業者と協定締結

鹿児島市は、認知症の高齢者に対する見守り活動や理解促進に取り組む事業者



と協定を結ぶ事業を始め、初めての協定が6業者と交わされ、下鶴隆央市長は「見守り活動のリーダーとして地域をけん引して」と激励した。

市は9月、行政や市民、事業者などが連携して認知症の予防や理解を進める「認知症オレンジシティかごしま」を宣言。認知症の人たちが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、日常業務で高齢者と接点がある事業者に見守り活動への協力を呼びかけていた。17日に市役所で協定書交付式があり、建設業など5

事業者の代表が出席したII写真。医療機器販売のアステム鹿児島支店(宇宿2丁目)は、従業員約100人が営業や配送で市内を回る。城井隆司鹿児島営業部長(54)は「困っている人へ積極的に声をかけ、会社全体で認知症をケアする雰囲気をつくりたい」。スモールジム鹿児島城西店(城西1丁目)の森山太郎代表トレーナー(45)は「会員の大半は50〜70代。認知症の啓発活動に取り組みたい」と意気込んだ。

市は引き続き協力事業者を募集している。認知症支援室の濱崎智加子室長は「業務に負担のない範囲で、一つでもできることがあればぜひ参加してほしい」と話した。(加藤朋子)

|||みなみネット|||
KAGOSHIMA LOCAL NETWORK

